

韓国黄海タンカー事故における野生鳥類救護活動報告（中間）

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

平成19年12月7日（金）、韓国忠清南道泰安郡(충청남도 태안군)沖の黄海で、香港籍の大型タンカー「ハベイ・スピリット号（約14万6000トン）」と、韓国籍サムスン（三星）重工業のクレーン船（1万2000トン）が衝突し、タンカーの船腹に穴が開き原油が流出した。

（原油積載量約180万バレル、流出6万6千バレル）

事故当初1万500キロリットルの原油が流出し、韓国最大のタンカー事故と報じられた。12月20日になり、事故の全容が明らかになる中、流出した原油の量は1万2547キロリットルであると修正された。

NPO野生動物救護獣医師協会（以下、WRV）は、事故発生 of 情報を入手後直ちに、油汚染事故担当の馬場国敏理事（獣医師）を中心に、情報収集を開始した。

韓国から直接情報を入手できるWRV会員の協力のもと、「湿地と鳥たちの友人」、「KFEM（韓国環境運動連合）」と交流をもつことができ、日本の野生動物救護団体として、現地での救護活動に参加した。

【救護活動】

12月20日（木）

馬場国敏副会長（獣医師）と野村治理事（獣医師）は、成田空国(11:10 発)から韓国釜山に向けて出発し、「湿地と鳥たちの友人」のキム・ヨンサン会長（校長）と会い、今後の打合せを行った。



《左から、キム校長、野村獣医師、馬場獣医師、現地団体メンバー》

12月21日（金）

釜山より、KFEM（韓国環境運動連合）と合流するため、に列車でソウル向かう。

KFEMのキム・シンファン共同議長（獣医師、大学で野生動物を研究）と会う。



《左より、野村獣医師、馬場獣医師、キム共同議長、キム獣医師》

ソウルから南西に約150kmの泰安近くの万里浦海水浴場には、原油が15kmにわたって海岸線を汚染している。

キム獣医師らと泰安に行き、そこで動物病院を開業している Dr.キムの病院へ行く。



《キム獣医師の動物病院》

そこには、オオハム、カンムリカイツブリ、カイツブリ、ウ、アイサ(アキサ)など7羽の油汚染鳥がダンボールに収容されていた。みな衰弱しており、撥水性も悪く、長く水に浮かすと沈んでしまう状態であったとのこと。また、室内の温度管理も悪く、強制補液や給餌を十分に行っていない様子であった。さらに、体重や体温の測定も不十分であり、血液検

査などによる健康管理がされていなかった。



この他プールのある施設には、汚染されたカモメ類が13羽保護收容されており、2日後に12羽が放鳥された。



ソウルの動物愛護団体も近くにテントを張り保護活動をしているが、ほとんど収容されず、収容された鳥も無くなったとのこと。



日本からWRVが救護活動のために現地入りしたことにマスコミの取材があり、新聞でも掲載された。

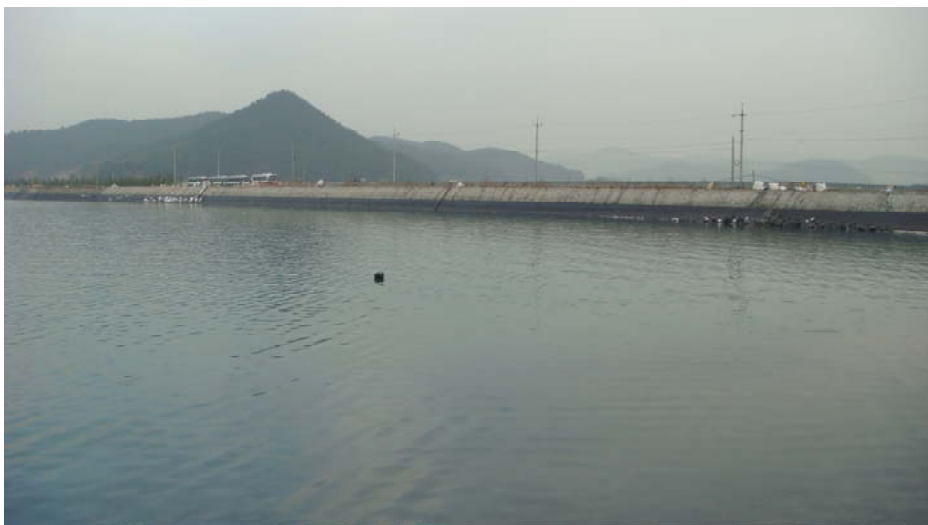
12月22日（土）

キム動物病院収容の油汚染鳥7羽の内、2羽が死亡した。
馬場獣医師は、再度2羽の洗浄を行い、強制給餌を行った。





海岸を見ると、ほとんど油は無く、油汚染鳥の発見・収容は無い。



12月23日（日）

収容されている5羽の内、3羽が死亡した。

新たな収容は無く、保護数も少ないので二次派遣は行わないことを決定し、野村獣医師は帰国することとした。

12月24日（月）

収容されておる2羽は、少し体重も増加し、自分で餌を食べるようになった。状態によっては、数日後に放鳥が可能なのではないかと考える。

馬場獣医師は、現地救護関係者と共に、マスコミ対応として簡単なレクチャーと洗浄を行った。



今後多数の保護収容が無ければ、WRVの現地での救護活動を今週中に終了し、馬場獣医師は帰国する。

テレビ放映では油汚染鳥の死亡個体が見られるが、いつのものが不明であ

る。

最も心配された海鳥の越冬地は、油汚染地域と反対側の島のため、今回は鳥に被害が少なかった。さらに油汚染や船舶と人の出入りが多いので、鳥が逃げたとの話も聞く。

【今回の成果】

- ① WRVをはじめ、日本の野生動物救護団体と韓国の団体と交流がもてた。
- ② 韓国の野生動物救護への考え方が、日本より遅れている。
今回油汚染鳥の救護について、診断、治療、管理、洗浄法など指導ができた。
なお参考資料とし、WRV主催の油講習会で使用している教本ならびに洗浄法DVDを寄贈した。
- ③ 日本（WRV）の油汚染鳥救護の知識と技術は、韓国の救護活動や体制作りにも協力することができると考え、また韓国の団体も希望している。
- ④ 大量の原油流出事故ではあったが、油防除対応の成果もあり、野生動物への被害はが少なかったと考える。
これは、海流等の影響で数週間後に予測された、日本への油漂流の被害も無いものとする。
- ⑤ 平成20年2月1-3日に韓国で、野生動物シンポジウムが開催されるが（既に決定していた）、急遽WRVから馬場獣医師と野村獣医師の参加要請がある。